

土木出張所長事務打合會議

一 記 者

三月九、十兩日に互り内務省會議室に於て土木出張所長（土木試験所長、神宮關係施設營造所長を含む）會議が招集された。會議に先ち各土木出張所長等は打ち揃つて明治神宮に正式參拜を爲し戰時下に於ける官吏の心構を誓つた。

右會議に於て内務大臣代理として山崎内務次官より左の趣旨の挨拶が述べられた。

次官 挨拶

會議の初めに於きまして一言御挨拶を申し上げます。

對米英開戦以來茲に四ヶ月大御稜威の下我が忠勇なる陸海軍の奮戦に依り敵の陸海空軍主力を撃滅し敵の東亞侵略の據點を相次で覆滅し世界史上稀に見る赫々たる戦果を収めつゝありますことは洵に御同慶に堪へない所でありまして、茲に各位と共に深く我が皇軍の奮闘に對し感謝の意を表すると共に戦歿せられたる幾多の英靈に對し衷心哀悼の誠を捧げ度いと存するのであります。

然し乍ら何人も唱へます如く敵は物資力の豊富を恃む米英であ

ります。従ひまして戦は必然長期戦であることが豫想せられるのであり、今日は未だ緒戦の域を脱しないのであります。而も今次聖戦の目的たる單に米英を撃破するのみならず、米英の壓迫より東亞諸民族を開放し、大東亞共榮圈の確立を期するといふ一大建設戦争であります。此の意味に於て我々の國土經營の樞軸たる土木事業に課せられたる使命も極めて重且大なるものがあると信ずるのであります。此の見地より致しますときは土木事業の企畫執行に付ても考慮を拂ふべき點が多々あるのであります。先づ第一は重點主義の徹底であります。政府に於きましては此の主義に則りまして豫算の編成及執行に留意してをるのであります。明年年度豫算に於きましても軍事國防生産力擴充等の爲直接必要なる土木施設に要する經費を相當計上致しますと共に一方之等に直接關係の少い事業に就きましては多大の犠牲を忍んで巨額の繰延又は節減を行つたのであります。従つて明年年度の豫算に計上せられたるものは何れも時局に鑑み緊急差措き難きもののみ限定せら

れてゐるのであります。各位に於かれましては此の邊の事情を篤と諒得せられ、各種事業の進捗に付一段の努力を拂はれたいのであります。

第二は土木事業に關する計畫性、綜合性の強化であります土木事業が綜合的見地より計畫的に執行せられねばならないことは云ふ迄もありませんが、殊に米英開戦以來作戰及軍需充足の爲資材勞力は著しく拂底し此の状態は今後と雖も相當續くものと覺悟しなければならぬと存じます。斯る情勢に對處して各位が今日迄の處概ね支障なく事業を進捗せられつゝあることに對しましては洵に其の勞を多とする所であります。然し乍ら限られたる資材及勞力等を以て事業を執行せられますに付ては諸般の事情を綜合的に考慮し克く事業の緩急、輕重の順序を計り愈々合理的に計畫的に處理せらるゝ様特に希望する次第であります。

第三は大東亞共榮圈確立に對する物的協力の問題であります。戦局の進展に伴ひ戰災の復興と共に建設開發の諸事業が逐次實施せらるゝことと相成りますが、之等事業の爲には相當多數の技術者其他の人員と機械器具其他の物資を要すること勿論であり、今後其の需要は漸次多きを加ふることも豫想せられます。大東亞建設の事たる素より國の總力を擧げて之に従ふべきは言ふを俟たぬ所であります。各位に於かれましては特に技術者の送出機械器具の貸與等の點に就きまして積極的に十分の御協力を煩し

度いのであります。

今や我が國は有史以來の世界的大飛躍を行はんとするに際し高度國防國家體制を益々鞏固ならしめ、一億一心綜合國力を擴充發揮すべき秋であります。日常土木行政の第一線に立ち一般國民と直接接觸を保ちつゝ物的協力の困難を排除し、土木事業の圓滑なる遂行に努力せられつゝある各位の御苦勞に對しては深く敬意を表する次第であります。戰時體制下行政權の強化に伴ひ官吏たる者の心構如何が舉國一影響に及ぼすことの今日より甚しきはないのであります。各位は深く思を此の點に致され率先垂範以て部下を導き所員一體吏道の刷新振作を圖る上に於て遺憾なきを期せらるゝ様特に御留意を煩し度いのであります。

以上は所懐の一端を申述べたのであります。が當面の問題に付ては別に指示する所がありますから各位は之に付て十分御協議を願ひたいと存じます。

次官の挨拶終つて議事に入り新居國土局長議長となり、計畫、河川、道路、港灣各課長より昭和十七年度豫算に關し詳細に説明が行はれた。次で所要資材及勞力の需給に關し總務課長より説明する所があつた。懇談事項に入り計畫課長より地方計畫に關し種々説明並協力方につき希望が述べられた。之に對し田淵名古屋、金森下關、佐藤大阪各所長等より種々意見の開陳が行はれた。重なる意見としては、規正と併行して開發地域の指定を必要とする

事、現在の地方に於ける行政機構では地方計畫の樹立に適當でない事、計畫の理想的を待つより實行主義に依る事等であつた。次で十八年度に於ける新規要望箇所就ても各所長より其の意見を聴取するところがあつた。又金子道路課長より重要道路整備調査促進方に關し要望が述べられた。

更に防空局久下事務官より獨逸に於ける防空狀況に關し有益なる視察談があつた。尙土木出張所の機構並所員の待遇問題等に關し、佐藤大阪、三輪横濱の各所長等より熱心なる要望が開陳された。

帶同せる出張所事務官の事務打合會議も別に開かれた。因に當日の議題並道路關係豫算の説明要領左の如し。

議 題

土木出張所長事務打合會議

一、昭和十七年度豫算に關する件

一、物資及勞務の需給に關する件

一、懇談

イ、地方計畫に關する件

ロ、土木施設の防空に關する件

ハ、昭和十八年度豫算に對する希望

ニ、其の他

土木出張所事務官事務打合會議

一、資材及勞務の需給等に關する件

二、豫算の經理に關する件

三、其の他必要と認むる事項

昭和十七年度道路關係豫算説明要領

昭和十七年度道路關係豫算は道路改良費二三、三〇七、〇〇六圓、重要道路整備調査費五〇、五四六圓、沖繩縣振興道路改良費一一〇、七九二圓、鹿兒島縣大島郡振興道路改良費五五、三五一圓、水害地方救済土木事業費三一九、五九五圓、冷害地方救済土木事業費四七六、五〇〇圓合計二三、三一九、七九〇圓なり尙此の外前年度實行豫算に依り繰越となれる單年度國道改良費九一〇、二〇〇圓及府縣道補助費九六六、〇〇〇圓あり、(昭和十七年度道路改良費一覽表参照)

其の内容に付述べれば

一、繼續費を以て施行する國道改良事業費は二二、七六六、〇〇〇圓にして、内既定費一一、四四一、〇〇〇圓、新規計上額は一、二七五、〇〇〇圓なり、而して昭和十七年度に於て新に起興する繼續工事は三一號國道横濱市、横須賀市間、特二三號國道横須賀市内、特三六號國道横濱市、大船町間、十二號國道敦賀市内、特二四號國道真市内の六箇所にして其の繼續費の總額一一、七二五、〇〇〇圓、工事期間は昭和十七

年度以降二箇年乃至三箇年とす。尙右の外知事執行に係る特殊國道改良繼續費總額三、四三〇、〇〇〇圓、昭和十七年度以降三ヶ年繼續事業として初年度一、一〇〇、〇〇〇圓を以て舞鶴、對馬、奄美大島、沖繩等の軍事國道を改良するに要する經費を認められたり。

昭和十七年度に於ける既定繼續工事は三十箇所にして軍事上特別の必要ある箇所を除き各箇所共既定年割額を相當繰延ぶるの止むなきに至れる爲、本年度豫算額は前述の通一一、四四一、〇〇〇圓に減額せり。

二、單年度事業に屬する國道改良事業費は總額三、二八四、〇〇〇圓なり、右は一般國道の改良に充當するものにして工事箇所は別表の通二四箇所なり、尙十六年度實行豫算に依る繰越額九一〇、二〇〇圓あり。(昭和十七年度單年度國道改良工事箇所調参照)

三、重要道路整備調査費五〇、五四六圓は昭和十五年度以降着手せる重要道路整備調査に要する經費にして前年度に引續き施行するものにして本年度を以て完了するものなり。

四、尙右の外府縣道改良費補助に要する經費として四、一九四、三三三圓を計上し府縣道の改良に對し之を助成するの外沖繩縣振興道路改良費一一〇、七九二圓、鹿児島縣大島郡振興道路改良費五五、三五一圓あり。

道路關係豫算の概略以上の通なるが右豫算を以て施行せらるゝ事業は何れも戰時下軍事、生産力擴充上緊急施行を要するものみにして就中直轄工事として各位に於て執行せらるゝものは特に重要且緊急を要するものなるを以て資材並努力等拂底の折柄格段の努力と工夫とを加へ事業遂行上遺憾なきを期せられたし。

